令和3年度 第3回 市役所庁舎及び市立安芸中学校跡地活用検討委員会 議事録

1. 日 時 令和4年3月29日(火) 午後2時～午後4時
2. 場 所 安芸市役所 第1・2会議室
3. 内 容 安芸市役所西庁舎地盤調査の結果、事業者アンケートの結果(速報)、
令和4年度のスケジュール

4. 委 員

(1) 委員

氏名	所属等	備考
坂本 淳 (委員長)	高知大学 理工学部	出席
山本 諭	安芸商工会議所	出席
佐藤 正	安芸本町商店街振興組合	出席
小松 身伸	安芸市観光協会	欠席
大西 敏文	四国銀行株式会社 安芸支店	出席
小松 梢	矢ノ丸保育園(社会福祉法人ふるさと自然村)	出席
松田 秀樹	安芸市社会福祉協議会	出席
安部 正治	安芸市消防団本部	欠席
川竹 壽栄	高知県農業協同組合 安芸地区	欠席
山手 敏和	公募市民	出席
仙頭 ゆかり	公募市民	出席
本田 浩一郎	高知県都市計画課	出席
竹部 文一 (副委員長)	安芸市	欠席
藤田 剛志	安芸市教育委員会	出席

(2) 事務局

大野 崇	企画調整課長
中川 亮	企画調整課長補佐兼企画係長
山岡 遥	企画調整課主事

5. 配布資料

資料1 安芸市役所西庁舎地盤調査の結果

資料2 事業者アンケートの結果(速報)

※会当日配布 事業者に対するヒアリング調査の結果

資料3 令和4年度のスケジュール

参 考 安芸市役所西庁舎地盤調査委託業務(概要版)

安芸市庁舎及び市立安芸中学校跡地活用に関するアンケート調査のお願い

安芸市庁舎及び市立安芸中学校跡地活用に関する資料

6. 議 事

事務局

欠席委員及び交代のあった委員の報告

《委員長 あいさつ》

《事務局から資料1に基づき、議事1を説明》

委員長

それでは、次第1について、これまでの振り返りを含めて、ご意見やご感想ありましたらよろしくお願ひします。

委員

資料2にある事業者アンケートの結果で、安芸市役所跡地活用に対して関心の高い13社からの回答がありましたが、それらの会社はどういった業態にある会社でしょうか。

事務局

13社の内訳としましては、温浴施設や、健康施設、観光施設、スポーツ施設に関連する企業から回答が得られています。

市役所西庁舎の地盤調査の結果と市役所庁舎跡地に関心が高い企業による利活用の可能性を含めて、委員の皆さんにご検討いただきたいです。

委員

専門的なことは全然わかりませんが、資料1を見ると、地震発生後において、液状化しなければ可能な限り利用するとしても10年、20年程度しか継続利用できないとの想定ですよね。また、地震による液状化が発生すると解体しなければならないことやその後の地盤改良にも多額の費用がかかります。実際にどのようになるかは想定できませんが、一番安全な想定においても10年、20年程度しか活用できないのであれば、取り壊して、建て直しの方が得策かと思ひます。

委員

私は違う意見となります。L1クラスの地震による建物への影響が軽微である場合、10年、20年は活用できるのであれば、できる限りは活用をしたら良いのではないかと考えます。

委員

地震発生した場合の津波浸水想定では、L2クラスで6メートル、L1クラスで3メートルになりますか。そのクラスの津波が来る地震が発生した場合は、その時点で建物自体の耐久性や津波による浸水が想定されるため、危ないのではと考えます。

委員長

おっしゃる通り、西庁舎自体も東日本大震災以後に建てられたものではないため、地震による影響は大きいと思ひます。

委員

多額の費用をかけて改修したのに、地震や津波で被害を受けた場合は捨て銭になる可能性もあります。それをどう判断していくかということになります。

委員長

活用に関するご意見やお金を投入しても割に合わないのではないかなど、数多くの意見が出てきましたが、この場で結論を出すことは難しいことから、方向性だけを定めるようなご意見をちょうだいできればと思います。今後もワークショップ等の色々なご意見をいただきながら、総合的な判断をしていければと思います。

委員

私が発言した内容で誤解が無いように補足します。設備投資で5,000万円かかるということですが、私がお伝えしたかった意図では、極力費用を抑えながら建物の現況のままで活用できる限度までは使用し、現状を維持するために多額の費用が発生するようになった際には、検討をしてはどうでしょうかということでした。

委員長

検討するフローの中で、設備投資以外にも現況のままで活用するという選択肢もあるということでもいいでしょうか？

事務局

様々ある可能性を排除しない形で検討していただきたいです。

委員

安芸市全体に言えることですが、津波が来た場合、建物の嵩上げをしないといけないため、そこが一番不安です。

委員

改修費用が出ていますが、西庁舎自体の耐震性として、改修をしないと崩壊するレベルであり、そのまま使用すると危ない状態であるということでしょうか？

事務局

西庁舎につきましては、昭和56年に建築されており、建築基準法改正の境目くらいに建てられておりますが、耐震性が有しているかどうかを把握できていません。

また、設備改修につきましては、西庁舎施設内の給排水とか電気設備等は、すでに40年以上経過しており、今後、活用する場合におきましての用途にもよりますが、例えばオフィスなんかを想定して使うのであれば一定大規模な改修が必要になってくるということでお示ししています。

委員

跡地に何をどう置きたいかということも関わってくると思います。今ある施設は地震がくるまで使うのもそうですし、全部取り壊して活用方法をどのようにしたいのか、また全部壊すのかという事も関わってくることから、どっちがってという意見はなかなか出ませんが、考えやすいとしたら、取り壊して、活用の方向性を決めるほうがやりやすいかと思います。

委員長

このようにざっくばらんに、ご意見・ご審議を継続していただけたらと思います。

委員

先程と同じような意見になりますが、活用するにも色んなパターンもあろうかと思しますので、先に活用するイメージを決めて、これをするから取り壊ししない、これをするから残すという考え方を持ち、その後に活用性等を含めて一緒になって考えていくことをイメージしています。

委員

今回の地盤調査による結果は、隣接する総合庁舎での地盤調査結果と差がありましたか。

事務局

総合庁舎の地盤調査が、東日本大震災前に実施されているということもあり、結果としては地震想定等の基準が変更されていることから、今回とは一概に比較が困難となります。

事務局

本日の検討委員会に欠席している委員から、西庁舎活用に関する考えを事前に聴取していますので、ご報告します。

委員

今回の地盤調査の結果では、西庁舎の活用についてまた判断を出し切ることができないと、しかしながら判断できないからと言って次の調査、ステップであります耐震調査や津波に対する安全性の検討に進むことは、得策ではないように思います。

ついては、西庁舎の活用については一度判断を保留とし、令和4年度の検討において市庁舎跡地の活用案が決まってきた段階で西庁舎の活用について判断を行うことが望ましいと考えます。

委員

地盤調査の結果、L1、L2クラスのいずれの地震が発生した場合においても、液状化が発生するリスクが高いということに加え、L2クラスの地震が発生した場合は、液状化の激しさが中位、液状化による地表変異が中となり、西庁舎の活用に一定の影響を及ぼすことが予想されます。

西庁舎を残した状態での地盤改良が実施できない以上、西庁舎を取り壊し、一定の地盤改良を行うことが適当であると考えます。

委員

西庁舎の活用については、市庁舎跡地の活用案によって判断を行うことが望ましいと考えます。

ただし、西庁舎を取り壊した場合に市庁舎跡地の活用の可能性が広がるのであれば西庁舎を取り壊した方が良く考えます。

委員

西庁舎を残して活用する場合、必要な設備改修等を行って、活用する際の実質的にどの程度の費用がかかるようになりますか？その費用によっても、残す、残さないの判断にもつながっ

てくると思います。

事務局

西庁舎の耐震性を判断するために耐震診断を合わせて、津波に対する影響についてもリスクを把握するための調査を含め、600万円から800万円の調査費用がかかります。耐震性を確認できれば問題ありませんが、ない場合は補強工事が必要になり、実質的な費用は不明ですが、多額の費用が発生すると思います。その後、施設設備となります空調・給排水の改修につきましては、利活用の方法の用途によりますが、そういった費用としてこちらも数千万単位で費用が発生すると見込んでいます。

委員長

西庁舎を活用する場合は、耐震診断は必要であると考えていますか？

事務局

活用の仕方によっては必要最低限のもので可能であると考えていますが、一定の機能を持たせるということであれば、そういった改修は必要であると思います。

委員

それは、その施設を利用する人の命を守るために必要な最低限の設備にかかるお金という事ですよね。

事務局

耐震補強工事をするのであれば耐震性がありますので、6.5メートル以上の垂直避難は可能になります。そこは、担保されると思います。

委員

法的にも、昭和57年以降の建物でないと恐らく耐震性能がないと思います。

委員長

これまでも何も耐震補強はされていないということでしょうか？

事務局

してないと思います。

委員

西庁舎を利活用するのであれば、それだけ多額のお金がかかるとなると、費用と見合わせて比較したときに、そういった状況であれば壊した方がよいかなど、判断材料になるため、全体的な費用感も示していただいたらもっとわかりやすいかと思います。

委員

垂直避難できる耐震性があれば良いのですが、東日本のように、耐震がされておらず、加力の強い津波がきたときには、瓦礫になる可能性があると思いますと、もう少し精査しないことには、建物を残す、残さないといった判断はなかなか難しいかと思います。

委員

垂直避難と言いますが、避難指示のマニュアル等では、津波が1メートルやったら2階建て、2メートルやったら3階建て、4メートル以上はもう施設の上に避難しますっていうことだと思います。6.5メートルということは、それで垂直避難っていうことを考えることができるのかなと疑問に思います。あくもでもここは来たら逃げていくって事ですとやってきたと思いますので、だから上へ上がるなんてことは、ここではないことだと思います。

事務局

避難するかどうかっていう話になりましたら、どういったところに避難しないといけないかというのは、きちんとまた精査します。その結果、避難はこの建物ではないですよということであれば別の建物とか北へ行くなど、別の避難方法をとらないといけないため、そういった形で活用するのであれば、誘導していきたいと思います。

委員

繰り返しになりますが、西庁舎の耐震性があるかどうかは分かっていますか。

事務局

分かっていません。
耐震診断はしていません。

委員

耐震診断をしているほかの公共施設はありますか。

事務局

学校施設は耐震診断を行い、必要に応じて改修を実施しています。

委員

他の委員からも意見がありましたが、私は西庁舎を壊す前提で話しますが、1度、この敷地をどんな形として活用としていくかという、ここの在り方を考えるような手法で検討してはどうでしょうか。

委員長

そろそろ方向性を決める議論をする必要があります。

委員

先程もお伝えしたとおり、改修費用等をもっと具体的に数字を出すことで、判断材料がはっきりすると思います。

委員長

活用方法が決まって、設備費用がいくらかかるかというステップになりますが、活用方針が決まっていない以上、費用の積算は難しいのではないかと思います。

委員

活用の方向性として、民間活力を入れてとなると、施設を改修しないといけないため、それに費用がいくらかかるのか、市民が使用するにしても、同じように改修しなければならないた

め、ある程度の費用となる数字は出てくると思います。

委員長

その前段階として、市民が使うのか、民間が使うのか、その結論の後に費用が出てくると思います。

委員

それも踏まえて、様々な活用を検討するにあたっての基本的な金額が必要になると思います。

委員長

具体的な内容が決まりまして、それにあたって間取りや必要な資材などを含めて積算を作成すると思いますので、具体的な内容が決まらなると費用の全体像は見えて来ないのではないかと思います。

事務局

ご指摘頂いたとおり、様々な用途があると思いますので、今回お示ししています5,000万から1億円程度との幅を持たせた形で書かせていただいております。この金額の精査につきましては、先程議論もありましたように用途が明確にならないと、なかなか細かな金額は出せないところであるため、ご理解いただきたいと思います。

委員長

やり方次第でいかようにもなりますが、業者との見積もりによっても、振り幅が大きく変わってくるかと思えます。

委員

先程から出ている800万円は、活用の際の設備改修として耐震性に対応した費用ではないということでしょうか。

事務局

そうですね。資料ではまだ出てきていない費用があるということになります。

委員

それだけの費用投入をするにしても、もったいないような気がします。全体の費用が分からないと話も変わってくると思います。

委員

もう少し分かりやすい金額を出してもらえたらと思います。

委員長

事務局とも協議しましたが、かかる費用が数千万から数億円という目安は、突き詰めることが容易ではなく、見積もりや積算のしようがないため、ある程度は致し方ないと思います。

委員

中学校の検討をしないといけません。

事務局

現在は、西庁舎の利活用について議論しております。

委員

地盤改良としてはどういったものになるのか。

事務局

先程の資料1の7ページに載っておりますが、杭基礎を地盤が固いところまで打ち込むことが地盤改良となります。こちらの工事対策を行う場合、土地の上に建つ物の規模の大きさによって、値段に開きが出てくるようになり、こちらでは数千万から数億という書き方になっていきます。

委員

それが地盤改良になるということですね、

事務局

例えば、公園などとして活用する場合は、こちらの費用は0円になります。

委員

今回は西庁舎の地盤調査の結果が出まして、先程からも多くの意見が出たところ、でここから具体的な内容をどう決めていくかを協議するのは、いつ頃になりますか。

事務局

次回となる令和4年度第1回目の当検討委員会で協議に移りたいと思います。

委員長

これまでの取組の中で、ワークショップの結果等の様々な判断材料をいただいております、その検討をしなければならないところではあります。令和4年度の第1回目の検討委員会では、そういった話が出てくるとは思いますが、具体的にどうしていくのかということを考えなければなりません。

今後の流れとしましては、これらの意見をまとめて、検討をしまして、その後の進め方についての考えはありますか。

事務局

様々なご意見を頂戴しましたけれど、ひとつの意見としては、おそらくなかなか着地しないかと思しますので、何名かの委員さんからご意見がありましたように、検討を先に進めながらその後で利活用を検討するという形がよろしいかと思っています。いかがでしょうか。

委員

資料3の内容で言えば、西庁舎の判断に仕方によっては、どういう流れで進めていきますか。

事務局

資料3は1ページ目に西庁舎取り壊す事があった場合でのパターンとなり、2ページ目が、

利活用の方向性が決まらなかった場合のパターンになります。1 ページ目のパターンでは、取り壊すということではなく、一度判断をちょっと置いてですね、議論を5月に、また7月か8月に、10月に行います3回の検討委員会で活用方針をご議論いただいたうえで、3月までに活用方針を決めるため、こういったスケジュールで進めていきたいという提案になります。

委員長

現状では、まだ具体的な内容が固まっていないため、色々な意見を集約して、令和4年度に決めて行ければということになります。

委員

令和4年度での検討では、中学校の検討も入ってきますか。

委員長

そうですね。

委員

中学校は現在の施設をそのまま活用を前提として考えていますか。

委員長

はい。そうです。

委員

中学校も市役所と比較的近い距離にあります、地盤強度や液状化等は大丈夫でしょうか。

委員長

当初から、中学校はそのまま使用するという話であり、耐震等も有しておりますから、そのまま使用できるという前提で、どう活用していくかを検討する必要があります。

令和4年度では、アンケートやワークショップ等の取組や、中学校の話も含め、検討をしていかなければなりません。

委員

そうなりますと、少しずつ検討材料を整理していかないといけません。

委員長

おっしゃるとおりです。これまでで判断材料も多くありますので、検討を進めながら整理していかななくてはなりません。

《事務局から資料2に基づき、議事2を説明》

委員

事業者アンケートの回答の中で、安芸市における印象を聞く設問で、自然環境が良いとの回答と、自然環境が悪いという回答が同率程度であります、こういった理由になるのでしょうか。

事務局

明確な理由を確認できておりませんが、おそらく、海に面しているということもあって津波等のイメージがあるのではないかと推察します。

委員

アンケートの回答があったのは29社になりますが、県内外でいったらどういった内訳になりますか。

事務局

半数以上が県外からの回答であり、四国外の企業も一定数ありました。

委員長

印象ですが、回答のあった企業の中で、ぜひってという会社はありましたか。

事務局

電話で対応させていただいた企業さんもありまして、結構意欲のある企業さんも確認できたのですが、これから個別のヒアリングを行っていく中で、そのあたりを探って行きたいと考えています。

委員長

企業側は、安芸市の情報かなにかをチェックしていたとか、そういったこともないうえでアンケートを行ったわけですね

事務局

そうですね。急にその県外の安芸市っていうところから連絡があったということで、電話をいただいた企業さんもいらっしゃいまして、説明して回答もいただいています。本日の配布資料でも参考でお付けしております安芸市の説明資料を、対象企業には送らせていただいています。

委員長

よくも悪くも担当者の回答によってバラつきがあるかもしれないですね。

委員

個人の感想としましては、企業側の担当としては、あんまりお金を使いたくなくて、安芸市との条件が色々と揃っていたら、やりましようかという風には感じました。地方創生に向けた官民一体となつての取組ということでは、企業側の努力によって独自に訪問して、何か大きく事業を展開したいという感じには、読み取れませんでした。

このアンケートを送った先は、各企業における官民連携の専門の部署課という感じでしょうか。

事務局

それも事業所によってバラバラとなつており、そういった人数が多いところでは専門の部署が回答していると思います。小規模の会社では、社長自らが直接回答してくれている企業もあります。

委員

回答があった企業で、三菱関係は1社でしたか。

事務局

今回三菱金曜会と本市ともゆかりのある27社に対しても、お送りしており、三菱重工業さんから回答があった形です。

委員長

マッチングが難しかったという要因もあると思います。

委員

高速道路が通っていないっていうのも要因としてあるかもしれません。

委員長

前提として、リサーチしようにも土地を知らないってこともあることや、色んな要素があると思います。関心の高い13社から、ここでこうした方が良いのではないかというご意見があれば、今後のヒアリング等に活用していければと思いますが、13社はどんな会社か、わかりますか。

事務局

13社の中では、安芸中学校跡地の方に関してはスポーツ施設関連の企業からの回答があり、気候が暖かいことを挙げていた企業が3社程度なので、そういった活用方法を考えている企業が多いかと思います。

委員

逆に言いますと、伸びしろがあるということですよ。安芸のこと、もっと知ってもらわないうといけないということにつながり、安芸市は逆にもっとPRしなければならないということだと思います。

委員

東部から野市・南国へスポーツ関係とかで行っていますので、そこで安芸市へもスポーツ関係の企業が安芸に来てくれたら、東部からの人の流れが安芸市へ入ってくると思います。

委員長

東部だけで考えるのか、四国で考えるか、あるいは高知県内で考えるのかっていうところもあります。特に余暇ってことになると、やっぱりその県外で余暇をするかというとなかったりします。

委員

事業者アンケートを参考に、更地にして綺麗な状態で民間活力を活用してということも、すぐに行動に移すのは難しいとは思いますが。

委員

今回の事業者アンケートで、跡地の可能性について実態が分かって良かったと思います。

委員長

実態が分かってきまして、企業とどういった接点でつくって取組を進めるのかというところだと思います。次回の検討委員会では、庁舎跡地の具体的な話に入って行きたいと思います。

委員

地域経済を循環させるという視点をもった跡地活用を考えないといけないと思います。当たり前のことだとは思いますが。そうなってくると、また色々と方向性が絞られてくるかとは思っています。

委員長

地域にお金を生むということも大事ですが、市内消費なのか、市外消費なのかってこともあります。外からくるのか、中で消費するのか、日常なのか非日常ってこともあります。それは非常に重要なことであると思います。

委員

壊すにしてもとてもお金がかかります。

委員長

近年でのワーケーションですが、取組を進めている自治体と取り組んでいない自治体があり、進めている自治体は進展している感じがします。県内でも温度差があります。そもそも高知県内は、寂しい回答かなっていう結果です。

愛媛県でも様々なことに取り組んでおりますので、自治体次第だと思います。そういったアイデアにも跡地活用を含んでおりますので、今後の検討の中でぜひご提案いただければと思います。

《事務局から資料3に基づき、スケジュールを説明》

委員長

今後のスケジュールとしましても、次は具体的にどうしていくかの話にそろそろ移らないといけません。現時点のこの感じだとあんまりうまくいかない雰囲気もありますので、どうするかという議論をしていかななくてはなりません。

委員

スケジュールにあります、市民アンケートですが、以前も取りましたけど、今回どんな内容を想定していますか。

事務局

前回のアンケートでは、浸水の状況や地盤の状況等の情報を与えないような形でのアンケートを取っておりますので、今回はそういった一定の情報を与えたうえで、どう考えますか？という形でのアンケートをできればと思っています。

委員長

これまでの議論を提示しながら、じゃあどう考えますかという風に、もっと具体的な調査になるという印象ですね。最初に行った際は、そういった調査だったと思いますが、それをかなり細かく調査するというイメージになります。

委員

市民アンケートを7月から9月ということですが、次の5月の検討委員会時には、どういうアンケートを取るかをお示ししていただけますか。

事務局

可能な限り、お示しできるように準備します。

委員

お願いします。市民アンケートを2回取ることになり、ワークショップでの意見もありますので、色々と整理が必要になります。

委員

そうですね、色んな情報がありますので、100パーセントでこうじゃないといけないっていうわけでもないと思います。

こういった方向性が良いのではないかというところを内容に落とし込んで、調査を行うことが良いと思います。

委員

スケジュールについてですが、もっとはっきり明確にしないといけない気がします。次の検討委員会で、こんなにしたいと思っていても言えないこともあると思いますので、事前に我々に匿名でいいので、個人が提案しやすいようなやり方を考えてもらえたらありがたいです。

今までの当検討委員会を2年間やってきましたが、実は私はこの跡地をこんな風に活用したいと考えていたなど、アンケートでもないですが、そういったものを委員の皆さんで出しいただいて、それを元にブラッシュアップしたいです。この跡地をこうしたいっていう想いは、まだ誰も言っていないと思いますので、それを次回に提示してもらえたらと思います。

事務局

1つの案として検討させてください。

委員長

メンバーの中で、ワークショップをするっていうのは難しいでしょうか。4人くらいになると思いますが、皆さんどう思われているのかはわかりませんが、自由な意見が言えるのではないかなと思います。

委員長

それは個人的に、ということでしょうか？

委員

この検討委員会の時に、4人くらいで1つのグループ作って、私はこう思うとか、今こう思うとかの意見をざっくばらんに話し合うということです。

委員

これまでの情報量やそれぞれ立場等もあり、自分自身の考えを簡単に言えなくなっているだろうと思います。そういうところまで煮詰まってきたら、8人や10人でもそういった話の場は可能かと思います。

委員

市民アンケートを取るのも1つの手法であると思いますが、跡地活用案の意見出しとして、できる、できないにかかわらず、委員同士によりますワークショップを行うことで意見がまとまりやすいのではないかと思います。

事務局

今後この方針をまとめていく上で、今までの判断材料と言われるワークショップとか、市民アンケートや地盤調査の結果など、様々な材料がある中、それらを踏まえた中で委員さんがワークショップを行うことで、個人的な意見も今までのことを踏まえながら、整理をしていただくということは、良いかと思います。

その検討の先に、活用の方向性とか方針等に関しましても皆さんの意見からこういうような整理ができるのではないかと考えます。

委員

今まででしたら、個人が発表・発言したことは議事録でそれはきちんと記録されていますので、それなら4人くらいの複数人で検討を行い、集まった内容を議事録として上げてもらうことで個人の主観だけではなく、多角的な意見になると考えます。

事務局

委員がおっしゃっているような事前のリサーチも行いまして、考えて整理したうえでそういったワークショップに臨むことで、さらに整理された内容がフレームの中に入れていきやすいと思います。

委員長

そうですね。自分達でワークショップをやりながら具体的にじゃあどう動いていくのかを、フラットに意見交換をすることは、非常に重要な提案だと思います。

令和4年度では、今後具体的にどうするかっていうところを、ワークショップで検討を進めていくことは良いと思います。

その他よろしいですか。

委員

はい。

《議事終了》

委員長

今後事務局は、地盤調査の結果に関する意見が出ました。その整理を行い、再来月の委員

会のご準備をしていただくこととなります。今度は、具体的にどのような方法で進めていくかを検討・整理をするという感じでよろしいですか。それでは、本日の議題は終了します。

事務局

本日は様々なご意見をいただき、ありがとうございました。これで今年度終了ということになります。

これまでの2年間、色々な材料集めをさせていただいたと思います。令和4年度はいよいよその材料を持ちまして、有効な活用方法をしっかりとここで検討させていただき、活用の方針案を作成したいと思います。

色んなご意見があり、お答えについても一人ひとりとは違って良いと思います。この跡地の活用については、多様なご意見をもとに、方向性や活用イメージを膨らませながら、中学校の跡地も含めて、令和4年度では本格的な活用方針を作成していくこととなります。お力添えをお願いしたいと思います。それでは、本日の委員会はこれで終了とさせていただきます。委員の皆さま、ありがとうございました。

《閉会》